

18歳プラス

池上彰の大岡山通信



若者たちへ

▼251

今回も読書の秋にちなみ、木昭夫訳、中公文庫）を
んで、学びについて考え、紹介します。著者は歴史
視野を広げるきっかけに、家です。人類の歴史を大
なるような作品を紹介し、きく動かし要因の一つ
ます。歴史には過去の成として、感染症の存在を
功や失敗が詰まってい無視できないことを世界
て、後世に生きる人々が史という視点で分析、解
教訓にすることができま説いています。

目ではないのです。

ます『疫病と世界史上

・下』（ウィリアム・
H・マクニール著、佐々
新型コロナウイルスによ

読書の秋にこの1冊①

歴史知り 危機に備える



人類は感染症との戦いに直面している（スペイン・マドリッドで新型コロナウイルスの検査をする医療従事者ら）＝ロイター

る世界の混乱も、人類が、巻がありますので、この
経験してきた歴史的な大機会にじっくり向き合っ
事件になる可能性がある。てみるとよいでしょう。

『感染症と文明』（山に、どんな社会がやって

大岡山は池上教授の活動拠点である東京工業大学のキャンパス名に由来します。日経電子版に「大岡山通信」「教養講座」を掲載しています。

本太郎著、岩波新書も、くるとかについて考える
文明という大きな視点で、機会になると思います。
感染症と人類のかかわり、新型コロナウイルスの問題の混乱
について考察していま、新型コロナウイルスの混乱
す。著者は医師で、感染は、20世紀前半の世界恐
症の研究で実績がありま、慌にも匹敵するたとえ
す。歴史を振り返りなが、られることもあります。
ら、同書の副題にあるよ、当時はどんな時代だった
うに、人間とウイルスの、のかを知るうえで役立つ
「共生への道」について、3冊を紹介します。

最後に『コロナ時代の経済危機』（池上彰・増田ユリヤ共著、ポプラ新書）を紹介しました。本格的な専門書やインターネットで資料などを探して、学びを深めるきっかけにしても

慌を体験しています。何未来に備えようという視
点が編集しました。大統
細かく記しています。少
し専門的な内容もありま
すが、同書は長年読み継
がれている資料価値の高
い一冊といえます。

学ぶ

磨く 育つ